
岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 佐藤 芳満

学校住所 可児市中恵土2358-1 電話0574-62-1185

1 会議の名称 学校評議員による会議（第2回）

2 会議の構成 委 員 石原 好弘 可児工業高等学校同窓会監査
〔石原・大島設計事務所代表〕
加藤 皓 可児市中恵土自治会連合会長
佐藤 千枝 可児市青少年育成推進員
徳田 泰昭 可児工業団地組合代表〔徳田工業(株)社長〕
水野 三千代 多治見法人会可児支部女性部
〔キング印刷紙工(株)取締役〕

（委員名は五十音順）

学校側 佐藤 芳満 校長
渡部 邦夫 教頭
服部 長務 教頭
古川 司朗 事務長
古田 哲 教務主任
川合 正郎 進路指導主事
小島 金也 工業科主任

3 会議の目的 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、もって本校教育の一層の改善・充実に資する。

4 会議の開催 平成18年11月18日（土） 11：00～13：00
於：可児工業高等学校 校長室
委員4人、学校側7人が出席

5 会議の概要 今回は、可児工祭を見学していただいた後、学校の近況報告をし、評議員の方々から可児工祭や行事全般についての感想・意見、そして外部評価結果や最近の話題から意見をいただいた。また、PTAの方々企画されている「食物バザー」の試食をしてもらった。

(1) 可児工祭・学校行事について

- 意見 1 自分の卒業前を思い浮かべ、それぞれに充実していたと感じた。
ものづくりが体験できるのは、工業高校ならのものである。
(高校生はきっかけを作ってやれば力を発揮する。)
- 意見 2 自分の特技を磨いていると感じた。細かい仕事に一生懸命、そして熱中して行っていた姿が感じられた。
- 意見 3 楽しんでいた。生徒たちが楽しそうでとてもよい雰囲気であった。
プレッシャーをかけず伸び伸びと特技を生かせば悪い方向へは進まないと思う。
- 意見 4 昨年も観させていただいた。生徒が夢中になって取り組んでいた姿がとても印象的であった。何でも夢中になってやれる姿勢を大切に感じる。
- 意見 5 高校生でこれだけできるのか、結構技術もあり、勉強しているなど感心した。
(教員が経験をふまえて提案したり、ノウハウをアドバイスしたり、生徒の感性を活かしたりしている。)
- 意見 6 生徒会長の説明がわかりやすくとてもよかった。正直に苦労話や今週一週間のみんなの作業ぶりについて語ってくれてよかった。
- 意見 7 先生方の作品展示について、自分の生き甲斐を生徒に紹介したり、発表する機会として大変よいと思う。
(先生も楽しいと言えるような作品作りや、発表会があってもよいと考え企画した。)
- 意見 8 同様に、びっくりするような作品もあり、生徒にとっては先生方の内面を知るという事や、親しみを感じる事ができるよい機会であると感じた。
- 意見 9 一般公開はよいことである。学校の姿勢としてソフトな感じがする。「体育大会ではスポーツの公開」「工業祭では学問の公開」など、平日から土曜・祭日にして、工業高校を理解してもらうよい機会ではないか。
(公開して心配なのは、他校生や外部の若者たちが来たときに、生徒がきちんと対応ができるかである。)(生徒は公開でプレッシャーを感じることもある。具体的にはグループ活動が多くリーダーとしての責任感など。)
(反面、自分が作ったのだと発表や説明をして自信に繋がる機会でもある。)
- 意見 10 体育大会の事前練習で、指導の声が聞こえていたが、今年あまり感じなかった。叱らず指導が出来てきていると感じている。
- 意見 11 外部(例としてアーラなど)での発表会なども企画してはどうか。外部から見ってもらうことと同時に、外での発表も大切な機会である。

(2) 外部評価結果について

① 実施した外部評価資料について説明し、意見をいただいた。

意見1 保護者への情報提供は携帯でのメールやインターネットを利用した方法を取り入れる等、生徒の手を経由する方法から直接目に止まるよう工夫すると良い。

(担任によっては携帯電話で情報発信をし、子供が家で話さないで大変助かっているというコメントもいただいている。)

意見2 アンケートの依頼があったが、「わからない」と回答した項目があった。こうして学校へ来て話を聞くとよく理解できわかる。

意見3 以前は周辺の公共施設の一角で、問題になりそうな行動を耳にしたが今は聞かないので、無くなっていると思う。これと言った問題も少ないので「頑張っている」という意味で回答した。

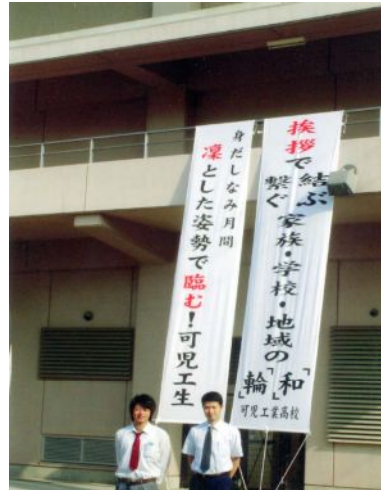
意見4 地区担当の生徒指導の先生と懇談する機会があったが、本校は女子生徒は少ないが他校ではスカート丈の短い生徒の指導がよく話題になる。

意見5 生徒指導面ではキャンペーン等の「一点主義」も大切、一つのことをきちんとやるといった姿勢・方針が生徒に浸透しているのではないか。

(資料の一部 → 懸垂幕によるキャンペーンの実施をしている。地域の人の目にも止まっている。学校全体で意識の高揚を図っている)



毎日「挨拶運動」(剣道部員)



生徒・先生が一緒になって

② その他(最近の話題等)

意見6 ものづくりに一生懸命になれば問題行動等は少ないと思う。学校がいろいろと努力しているのはわかる。新聞等と通じ、学校の教育活動や生徒の活躍を積極的に広報してもらえるとありがたい。

意見7 最近話題になっているいろいろな事件や報道があるが、現代人はストレスに弱くなっていると思う。大人になってクラス会に参加できないような雰囲気は作りたくない。みんなが協力したり交流しあう機会を大切にさせたい。

会議のまとめ

例年、第二回は「可児工祭」の日を選定し、生徒と直接ふれあっていただく事や、日頃の活動の成果を見ていただく機会としてしている。会議では、多くの外来者と接する機会が得られ、生徒が生き生きと活動を展開している姿があったと評価をいただいた。そして、「一生懸命に取り組む」姿勢が見られ、こうした活動を教育活動全般で反映できる事が大切との指摘を受けた。可児工祭は来年度も公開にして、生徒の「自己アピール」や「コミュニケーション能力」を身に付ける場としていきたい。

外部評価については、学校のことがよくわからず回答がしにくいとの意見が出た。時期に応じた活動状況や取組、生徒の活躍などの情報提供をすることを心がけたい。又、保護者の方へは、「HR・学年・学科」の各通信を定期的・計画的に発行することにより、連携を密に出来るよう工夫していきたい。